

平成29年3月2日

NHK広報局

3月会長定例記者会見要旨

Q. 第68回日本放送協会放送文化賞について

A. (上田会長) 放送事業の発展や放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈している日本放送協会放送文化賞の受賞者が決まった。第68回となる今年の受賞者は▼地震研究の第一人者の東京大学名誉教授の阿部勝征さん(故人)、▼無線伝送の基礎となるアンテナ技術の研究を先導し、衛星放送の発展に貢献された東京工業大学理事・副学長の安藤真さん、▼「映像の世紀」などNHKのドキュメンタリー番組を楽曲で支え、多くの人々の心を捉えてきた作曲家の加古隆さん、▼幅広い知識と独自の視点、語り口で、昭和から平成へと続くテレビの世界をリードされてきたタレントのタモリさん、▼気品ある確かな演技力で、半世紀にわたってテレビドラマの発展に貢献されてきた俳優の三田佳子さん、▼昆虫学者として、ラジオ番組「夏休み子ども科学電話相談」の回答者を33年間にわたって務めてこられた群馬県立ぐんま昆虫の森・名誉園長の矢島稔さんの6人。3月17日の放送記念日記念式典で贈呈式を行う。

(詳細は報道資料参照)

Q. インターネット同時配信実験試験的提供B・見逃し配信実験の実施結果について

A. (会長) 実施した期間は去年11月28日から3週間。2回目の今回は総合テレビだけでなくEテレを加え、見逃し配信も行った。参加者は前回と同じ1万人規模で、今回はNHKネットクラブの会員だけでなく、ふだんNHKをみない方も含め半数の5千人は性別や年齢層に偏りが出ないよう参加者を募った。

この5千人のうち、同時配信または見逃し配信を一度でも利用いただいた方は11%。同時配信の利用者は6%、見逃し配信の利用

者は8.5%だった。同時配信でよく見られたのは、「ニュース7」などニュースが5番組、「Jリーグチャンピオンシップ・決勝第2戦」といったスポーツ番組など、放送でも人気の番組だった。見逃し配信で利用が多かったのは、「べっぴんさん」などのドラマや、「NHKスペシャル」などのドキュメンタリー、それにスポーツ番組など幅広いジャンルの番組だった。

総合テレビを利用したのは8.8%、Eテレは5.1%。「子供に電車の中で『おかあさんといっしょ』などを見せるとじっとしてくれるので助かった」などという声が寄せられ、Eテレにも同時配信や見逃し配信のニーズがあるとの可能性を感じた。

利用時間は「夜、自宅で見た」が63%と最も多く、次いで、「日中、自宅で」が30%、「日中、外出先で」が13%で、家の中でもパソコンや携帯端末でご覧いただく方が一定程度いることが感じられた。

今回の実験で配信できた番組は全体の84%で、前回の実験の78%よりも高くなったが、配信できなかった複数の課題の解決に向けた取り組みを並行して進めることが必要だと考えている。(詳細は報道資料参照)

Q. センバツ高校野球の8Kスーパーハイビジョン生中継について
A. (会長) 高校野球を初めて8Kスーパーハイビジョンの試験放送で生中継する。生中継するのは、3月19日に開幕する「第89回センバツ高校野球」の準決勝2試合と決勝の、合わせて3試合。超高精細な8Kカメラの強みを生かし、できるだけ広い画角で試合の様様をお伝えするほか、22.2チャンネルの立体音響で、応援団のブラスバンドや声援など、高校野球ならではの熱気に包まれた観客席の雰囲気も感じていただく。また、3月12日から大阪で始まる大相撲春場所も8Kスーパーハイビジョンで生中継する。さらに3月11日に東京の代々木体育館で行われる男子プロバスケットボール「Bリーグ」の「アルバルク東京」対「大阪エヴェッサ」の試合を4Kスーパーハイビジョンで生中継する。選手たちに近い位

置のカメラ台数を増やし、スピード感や躍動感がより伝わる工夫をする。いずれの中継も、全国のNHKの放送局で公開する予定。

(詳細は報道資料参照)

Q. BPO放送倫理検証委員会がまとめた選挙報道をめぐる意見で、量的ではなく質的な公平性をとの指摘があったが、どう考えるか。

A. (会長) NHKとしては、放送法と公職選挙法の趣旨に基づいて、引き続き、公平・公正で、視聴者の判断に役立つ選挙報道に取り組んでいくということに変わりはないと思う。

Q. 小保方晴子氏の申し入れによるBPOの放送人権委員会の勧告が人権侵害という最も重いものだったことについて。

A. (会長) BPOの決定は、真摯に受け止めている。現場が今後、BPOと意見交換をしながら、より良い放送につなげていってくれるということなので、これを見守りたい。

(以上)